

Q & A (第1版)



R3/3/11現在

**Q：経験がなくても大丈夫ですか？**

A：大丈夫です！

町職員もプロの外部有識者の方もフォローします。

また、課題解決するために職員も地域の住民の方も一緒に考えていきますので、皆さんのスキルとパーソナリティを發揮していただければ、「経験」は問いません。

**Q：地域おこし協力隊の3年間を終えた後は延長はないのですか？**

A：地域おこし協力隊での延長はありません。

ただ、今後設立する「まちづくり会社」の社員などで活動を延長していただく可能性はございます。

## Q：テレワークでの勤務も可能でしょうか？

A：週15時間の企画業務については、在宅勤務、テレワーク、フィールドワークでの勤務も可能です。

勤務方法の詳細については、WEB面接でご相談ください！

勤務時間	i. Mi i Mo管理業務：Mi i Moに滞在して施設運営。 平日週2日8時間・土日祝12時間《合計週20時間》
	ii. 企画業務：Mi i Mo外で町内外の様々な人とつながり、Mi i Moのコミュニティを活性化させるプロジェクトを企画・運営。《合計週15時間》
	※ Mi i Mo開館時間：9—21時 / 休暇：月曜日・年末年始 ※ i、iiを満たせば週3～4日勤務も可能。

※Mi i Mo管理業務については、Mi i Moでの勤務が必要です。

## Q：外部のアドバイザーを交渉して招聘することも可能ですか？

A：可能です！

ただし、予算の調整がありますので、予算の範囲内で招聘していただくことになります。

- ・住民の方へのイベントの講師など。
- ・運営側へのアドバイザー・講師など。

クラウドファンディングなど町予算を必要としない場合は、柔軟に対応できます！

## Q：まちづくりへの参画の仕方はどのようになりますか？

A：次のような企画業務を通じてまちづくりに関わっていただきたいと思います。

(例)

- ①住民の方が参画する運営委員会の会議の主催
- ②小中学生が参加する子ども会議の主催
- ③M i i M oを中心とするイベントの企画、実践
- ④住民の方が抱える課題の解決
- ⑤地域産業の活性化の提案、実践
- ⑥まちづくり会社設立に向けた新たな収益事業の企画、実践

## Q：地域おこし協力隊（今回募集）以外での勤務形態は？

A：窓口業務のスタッフとして、パートタイムの会計年度任用職員を募集予定です。

窓口コンシェルジュ：2名（1日6時間、週4日）

図書スタッフ：4名（1日5時間、週3日）

※ともに時給1,055円。

別途、「MiMo食堂のシェアメンバー」や「図書ボランティア」なども募集予定です。

## Q：就労時間の柔軟性は？

A：Mi iM0管理業務については、シフト制を予定しております。  
週20時間で他の職員との調整を行います。

企画業務については、勤務時間は週15時間ですが、  
勤務時間は自由に設定いただいても構いません。

Q：どのような点が「日本初」の取り組みですが？

A：「構想段階」「運営検討」「施設運営」までを  
住民の方と一緒にやっていること。

施設運営を通じて、住民と行政の協働により  
「まちづくり会社」設立をすること。

この2点が日本初の取り組みです。



# Q：勤務のスケジュールは？

A：1週間のスケジュールの例

	月	火	水	木	金	土	日
午前	休み	複業 OR 企画業務 (週15H)	休み	複業 OR 企画業務 (週15H)	複業 OR 企画業務 (週15H)	Mi iMo 7時間 勤務	複業 OR 企画業務 (週15H)
午後	休み	複業 OR 企画業務 (週15H)	休み	複業 OR 企画業務 (週15H)	複業 OR 企画業務 (週15H)		複業 OR 企画業務 (週15H)
夜間	休み	Mi iMo 4時間 勤務	休み	Mi iMo 4時間 勤務	複業 OR 企画業務 (週15H)	複業 OR 企画業務 (週15H)	Mi iMo 5時間 勤務

## Q：複業可能な意図は？

A：町外でも積極的に経験を積み、その経験、知見、知識を三宅町に還元してくれることを期待しています。

また、三宅町での経験や知見を社会で還元していただくことも期待しています。

## Q：移住者の受け入れ状況は？

A：地域おこし協力隊については、初めての導入です。  
移住促進については、平成27年度から実施しており、  
6年間での移住者は「100名」を超えております。

## Q：地域の状況や、子育ての環境は？

A：三宅町は「子育てがしやすいまち」です。

○出産祝い品として、1万円から10万円の紙おむつなどの消耗品を贈呈しています！

○子ども医療費助成は、中学校卒業まで！

○保育園は待機児童0人！

○公立保育園では、全国で初めて「手ぶら登園」を実施！

○全国でいち早く幼保一体の幼児教育を実施！

○学童保育も待機児童0人！

○子育てアプリを活用した、シェアリングエコノミーを導入！

(○町長も育児休暇を取得中)

**Q：一年後にどのような成果を期待していますか？**

A：行政によるまちづくりではなく、住民が主体となるまちづくりの基盤を作ることを期待しています。

	期待すること	備考
1年目	オープニングイベントの企画調整	交流づくり
2年目	地域課題の解決に向けたプロジェクト	まちづくりの実践
3年目	新たな収益事業の企画調整	まちづくり会社設立準備

Q：コミュニティの理想の姿について、困っていることは？

A：行政では、住民ニーズに対応できることが少なくなっている。

例：災害時の避難。

独居の高齢者への支援。

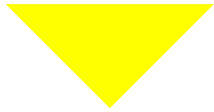
子育てへのきめ細やかな支援。

そこで、住民による共助と行政との協働のまちづくりを。

課題は、行政への理解の不足。まちづくりの担い手が不足。

Q：このプロジェクトが動き始めたきっかけは？

A：児童館の老朽化・耐震不足での閉鎖、公民館の老朽化により、複合化、集約化を図る必要が生じた。



住民とのワークショップを開催し、ヒアリング。  
新たな拠点として、「町民が気軽に集える場」として整備することが必要との意見が多かった。

多世代が繋がり地域の魅力が創出される町民ひとりひとりの居場所